

第21回 台畑遺跡 (福島市丸子)

台畑遺跡は、市道北沢又・丸子線沿いにある福島商業高校の北側に位置する弥生時代～中世の遺跡で、松川と八反田川の河間地の河岸段丘、谷底平野、旧河道が重合した複雑な地形を利用した遺跡です。

昭和63年～平成元年の宅地開発により発掘調査が実施され、弥生～平安時代の土器や平安時代の竪穴住居・掘立柱建物跡、奈良時代の窯跡等とともに水田跡が見つかりました。水田跡は7面重なっており、一番下から見つかった水田跡が弥生時代のものです。この水田は弥生時代中期（今から約2,000年前）の福島市最古の水田跡に位置づけられますが、残念ながら住居跡等は見つからず、この水田を営んだ集落については、よくわかっていません。

弥生時代の水田跡は32条の畦畔によって33面に区画され、それぞれの区画は方形を基本とするものの三角形や不整形のものも見られます。1区画の広さは、最大11.3㎡から最小1.93㎡までばらつきがありますが、現代の水田から見ると極めて小さな区画です。当時の水田の耕作の仕方や水の管理の仕方などから、小規模水田であったと考えられます。

しかし、後世になると台畑地区にも大きな水田の跡が出現し、稲作に対する古代人の魂を見せています。弥生時代の人々が始めた稲作は次第に拡大し、阿武隈川周辺に古墳文化の花を咲かせるその原動力となっていくのです。

「弥生時代の遺跡」はこの24号で一区切りとします。次号からは「古墳時代の遺跡」を連載します。引き続きご愛読ください。



高台からは平安時代の集落が、旧河道からは平安時代と弥生時代の水田が見つかっています。



旧河道に作られた、弥生時代の水田の形がよくわかります。

じょーもぴあ宮畑だより

2017 冬号

vol. 24

特集 : じょーもぴあ宮畑この1年……………P 2
 連載 : 展示案内 ⑧……………P 3
 : コラム 縄文の小径 第4回……………P 3
 : 福島市の遺跡 第21回……………P 4



じょーもぴあ・遺跡の案内人この1年
 小学校の見学学習や縄文体験会では、2,500名を超える子供たちのガイドや体験サポートをしました①②。外部講師を招いてのオープンカレッジも盛況でした③。土偶作りワークショップでは力作が光ります④。じょーもぴあ宮畑の南にそびえる高松山、峨嵋山へのフィールドワーク。周辺の文化財も気になります⑤。館外研修は高島町から米沢方面でした。うきたむ風土記の丘考古資料館で記念写真⑥。一年を通しての研修テーマは縄文の食です。今年はトチの実の灰汁抜きに挑戦しました。皮をむいて石皿で粉にし、縄文土器を使って灰汁抜きしました⑦。



大鳥城跡

期間 平成29年12月9日(土)～平成30年4月2日(月)
 場所 じょーもぴあ宮畑 体験学習施設展示室

展示構成

- 古代の館ノ山
- 中世の館ノ山Ⅰ
- 中世の館ノ山Ⅱ
- 信夫佐藤氏の時代
～12～13世紀の福島～

関連事業

講演会 大鳥城を掘る!

講師 菅野 崇之氏 (福島市振興公社文化財調査室)
 日時 平成30年3月18日(日) 午後1時30分～3時
 場所 じょーもぴあ宮畑体験学習施設
 定員 80名(申し込み不要)
参加費無料

大鳥城は源義経の従者佐藤継信・忠信兄弟で有名な信夫庄司佐藤氏の居城と伝えられています。今回の展示では、これまでの発掘調査成果に基づき、福島市の歴史の中での大鳥城の歴史を概観します。

編集後記
 最近のAI(人工知能)の進化は、私達に便利な生活と素晴らしい夢を与えてくれます。その反面、世界のどこかでは今日も紛争が絶えず、国内においても信じられないような事件が起きて、連日マスコミをにぎわせて私達を不安にさせていることも事実です。それ故に、不便でも皆で支え合い争いもなく、素晴らしい土器や土偶を作り、感謝の気持ちを持って自然の中で穏やかな生活を送っていたであろう縄文時代にあこがれてしまうのです。(慶子)



じょーもぴあ宮畑 この1年

5月 エコバッグ作り
6月 土偶作り
6月 ハープ王子がやってきた
7月 福島エコ探検隊
7月 アートボックス作り
8月 夏の星座早見盤づくり
9月 縄文土器づくり
9月 福島応援人形劇公演
9月 うさぎの土笛づくり
10月 藍染体験
11月 縄文鍋まつり
12月 キャンドルシェード作り
1月 親子で凧作り

4月 土笛づくり/凧作り 5月 弓矢王選手権/エコバッグ作り/縄文人体験会 6月 土偶作り/縄文人体験会
 ハープ王子がやってきた 7月 福島エコ探検隊/縄文土器づくり/夏まつり/アートボックス作り
 8月 夏の星座早見盤づくり 9月 オープンカレッジ/福島応援人形劇公演/縄文土器づくり/秋まつり
 /うさぎの土笛づくり 10月 オープンカレッジ/藍染体験/縄文人体験会 11月 縄文鍋まつり/オープンカレッジ
 /宮畑ウォーク/縄文タペストリー作り/縄文リースづくり 12月 キャンドルシェード作り/千支のスタンプ作り
 1月 親子で凧づくり/鬼のお面づくり 2月 縄文ポシエット作り/縄文風ひな人形づくり 3月 フィールドワーク

展示案内 ⑧

展示室「縄文時代の人と地域のつながり」は地域間の交流や物流をテーマにしており、中心になるのは宮畑遺跡から出土した「アスファルト」です。福島県内ではアスファルトは産出しないため、新潟～秋田の日本海沿岸で産出する天然のアスファルトがはるばる宮畑の縄文村まで運ばれてきたものと考えられます。縄文時代には、アスファルトは主にその粘性を利用して接着剤として、鎌を矢柄に固定するときなどに使われたり、あるいはその黒さを



宮畑遺跡で見つかった縄文時代後期(今から約3,500年前)のアスファルトは直径6.5cmほどの小型の土器に詰められていた。



利用して絵具のように使われたりしていました。

もちろん、天然のアスファルトは油田から採取してそのまま使えらる限りません。ゴミを取り除いたり、煮詰めたり様々な工程が必要な場合もあります。アスファルトが宮畑の縄文人の手に渡るまでには、様々な段階で様々な人の手を経ているものと考えられます。アスファルトの小さな塊一つに、どんなドラマが秘められているのでしょうか。ぜひ、実物を見に来てください。

連載コラム 縄文の小径

第四回 縄文時代は、偶然、アメリカ人によって発見された

明治維新と教育

今年(明治維新から150年)にあたる。慶応3年12月(1868年1月)、「王政復古」の大令によって幕府が廃止され、天皇を頂点に置く政府組織が新たに定められた。江戸時代から明治時代へと世の中は一新され、西洋文化を取り入れ近代化の道を歩むことになった。同時に、「富国強兵」が明治日本の合言葉になった。国を守るため、工業を進展させ、教育を充実させる学制が敷かれ、西欧化という国家の方針のもと、自然科学の分野でも広く西欧の学問が導入された。それが、日本に人類学や考古学という学問を起し日本の歴史を大きく塗り替える契機となったのである。

明治維新後は多くの藩において教育改革が企画され、学校制度および教育内容の近代化が進められた。明治5年(1872)には、日本最初の近代学校制度に関する基本法令である学制が敷かれた。旧幕府から継承された昌平学校・東京開成学校・東京医学学校の3校を統合し東京大学が創設され、旧昌平学校系を中心とする官立教育機関構想が生まれ「大学」と改称されていく。多数の外国人教師を雇い入れて日本人学生に近代の学問を教え教育の充実が進められた。

モースと大森貝塚

また、日本ではじめて鉄道が新橋⇨横浜間に開通したのも明治5年のことである。神奈川湊の対岸にある横浜村に港湾施設や居留地をつくり開港したため、鉄道は横浜が起点となった。馬車とちがって季節や天候に左右されず、大量、迅速かつ確実に輸送し、移動できる鉄道は交通事情を一変させた。明治10年4月東京開成学校および東京医学校を合併して、東京大学と称する旨の布達が発せられ、東京大学が創設されたその直後の7月、アメリカ人エドワード・シルベスター・モースが初代の動物学の教授に就任、来日。この東京への第一歩が大森貝塚の発見・発掘となり日本の考古学・人類学の夜明けとなった。東京大学との契約は明治10年7月から2年間、月給は



大森貝塚の報告書でモースが表した縄文土器の実測図(岩波文庫『大森貝塚』より)

350円(当時日本人教授は1000円)であった。お雇い教師として日本へ赴任してきたモースは、明治10年(1877)6月17日夜横浜港について一泊し、翌朝東京へと向かった。横濱から新橋は三分の一が海上の上に築堤を築き鉄道が敷かれているので、車窓からは海岸線の眺めが良く、陸側ははじめて見る日本の田園風景が続く、のどかな景色を満喫できた。大森駅を発車してほどなく、左手の線路沿いの崖に白い貝殻が点々と露出しているのに注目した。モースはそれが貝塚であると直感した。それは、車窓から多くの日本人が目にする光景だったが、これまで誰も気に留める者はなく、勿論古代人が貝を捨てた堆積した跡だとも思わなかった。鉄道工事でも多くの関係者が直接身近に接してきたが、誰一人気にもせず見過ごしてきた。日本で最初の発掘調査

大学に着任して3ヵ月後の9月、東京大学理学部動物学の助手と生徒をひきつれて、大森の現場に向き、線路わきの崖にある貝塚の発掘に着手、埋もれている貝殻を掘り起こして多くの土器や土偶、石鏃等を得た。これが日本における最初の考古学的発掘となる。これらの土器を分類したとき、モースは土器の面についている縄目の紋様がどの土器にも共通していることに気づいて、これらを素文土器(cord marked pottery)と名づけた。縄文土器の誕生である。これを後に日本人の学者がいろいろな日本語に訳したが、その中の一つで白井光太郎という学者が訳した「縄紋」という言葉が定着し、後に「縄文」と書かれるようになる。明治維新と文明開化によるひとりのアメリカ人教師の来日という偶然が、日本の歴史と考古学に計り知れない影響を残すことになったのである。(游行)